日本共産党議員団　山中　一志

ＰＦＡＳ汚染への対応は

Q　ＰＦＡＳ（ピーファス）を含めて今までになかった人工的な化学物質の問題が生じている。ＰＦＡＳとは有機フッ素化合物の総称で約５千種類ある。自然界でほとんど分解されず「永遠の化学物質」と呼ばれているが、

①発がん性などが指摘されているが、環境に及ぼす影響は。

②環境調査については。

③もともと自然界に存在しない物質がなぜ検出されるのかが問題で、企業などの周辺を含め広範囲での環境調査が必要と考えるが。

A　①環境省の情報では、難分解性、高蓄積性などの性質があるため、環境や食物連鎖を通じて人の健康や動植物の生息・生育に影響を及ぼす可能性が指摘されています。しかし、どの程度の量が身体に入ると影響が出るのかについては、いまだ確定的な知見はなく、現在も国際的にさまざまな検討が進められており、今後の動向を注視する必要があると考えます。

②県が市内の愛知川下流や琵琶湖の愛知川沖でモニタリングとしてＰＦＡＳを測定しており、濃度は低い状況です。現在のところ、本市の環境調査ではＰＦＡＳを測定していません。

③化学物質の審査および製造等の規制に関する法律で、使用が禁止されていることと、県の検査結果を踏まえて、現在のところ安心と考えています。

日本共産党議員団　田郷　 正

万博への「教育旅行」は止めよ！

Q　大阪・関西万博が来年４月から夢洲で開催される。

　滋賀県は小学６年生から高校３年の児童・生徒９万６千人を教育旅行として万博に招待する方針である。

　夢洲はゴミや汚泥などの廃棄物処分場で、３月には溶接作業中の火花がメタンガスに引火・爆発する重大な事故が発生した。また、観光バス駐車場の地下には大量のＰＣＢ汚染物が埋められている。

　１日１万４千人もの子どもたちの来場を想定しながら、昼食が取れる団体休憩所は２０００人分しかない。夢洲へのアクセス路は夢咲トンネルと夢舞大橋の２ルートしかなく、避難計画も作れない状況である。

　こんな危険な場所へ学校行事として、子どもたちを動員すべきでないと考えるが、

①県からどのような通達がされているのか。

②県は学校の判断によるとしているが、本市教育委員会の見解は。

A　①大阪・関西万博子ども招待事業活用希望調査の実施およびオンライン説明会の開催などについて市内小中学校長への周知依頼がありました。

②教育旅行として参加する場合の課題を洗い出し、学校長同士の意見交換の場を設けています。子どもにとって安全安心な教育旅行になることを第一に各学校と協議を進めます。

太陽クラブ　安田　高玄

毎朝危険がいっぱい

Q　通学路の安全確保について、学校保健安全法第27条で、児童生徒が安全に通学できるよう指導することが学校に義務付けられており、当然通学路の安全確保をしなければならない。

　市道川合上羽田線の川合交差点から名神高速道路間は、大型車両も多く、歩行者や自転車は危険と隣合わせである。特に中学生は恐々の登校となっている。

　過去３度も議会で同様の質問をしてきたが、具体的な対策がされていないことが最大の問題であり、早急の改善が必要と考える。

　この区間は、10年前から東近江市道路整備アクションプログラムの交通安全事業で整備検討路線となっているが、通学路の安全確保対策は、いつ行うのか。

A　この区間は、東近江警察署、学校および市関係課による通学路合同点検を行い、危険箇所と認識しています。

　安全確保の対策として、グリーンベルトや通学路を示す看板を設置し、ドライバーへの注意喚起を行っているほか、川合交差点付近の水路に蓋をするなど、部分的な安全対策を行ってきました。また、当該箇所を徒歩で通学することがないよう、小学生については登下校時にちょこっとタクシーを利用することとしています。

　今後の歩道整備については、名神高速道路トンネル部の拡幅が課題であると認識しています。

太陽クラブ　辻　 英幸

未利用施設の有効利用とは

Q　旧能登川中央公民館はＪＲ能登川駅前徒歩２分の好立地にもかかわらず、閉館後９年もの間、建物は放置されたままになっているが、

①なぜ９年間も放置されているのか。

②景観上非常に問題があり、昨今解体費用も高騰している中、更地にすべきではないか。

A　①閉館直後は防災情報告知放送システムの告知端末の保管場所として利用し、現在も能登川南小学校の大規模改修工事に伴う備品保管場所として有効利用しています。

②利用できなくなった後は解体する方針です。

Q　小学校の下校時に保護者のお迎えと思われる車が頻繁に出入りするのを見かけ、危険と感じたが、

①主にどのような理由で車の迎えがあるのか。

②少人数でのクラス編成、支援学級の増加、支援員の増強など教職員数が増加しているように思うが、学校の駐車スペースに問題はないか。

A　①児童生徒の体調不良時や習い事へ行くための迎えと認識しています。

②現時点で駐車場が不足している学校はありませんが、今後も不足が生じないよう、学校と連携しながら対応していきます。